

1 学校教育目標

- よく考えすすんで学ぶ子 ○ やさしさと思いやりのある子 ○ 明るく元気な子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	足立小学校スローガン「期待の登校・満足の下校」	
	○ 全ての子供が学ぶ喜び、友達とかかわり合う喜びを味わえる楽しい学校	⇒ 「子供にとって安全・安心な学校」
○児童・生徒像	○ 教職員が一体となって子供の育ちを支え、その成長を共に喜び合える学校	⇒ 「教職員が高め合う学校」
	○ 保護者が我が子を通してよかったと実感でき、地域からも信頼される学校	⇒ 「保護者や地域とともに子供を育む学校」
○教師像	○ 話をしっかりと聞き、主体的に学び、自分の考えや思いを表現できる児童	
	○ 互いの違いやよさを認め、仲良く助け合い、協力し合って活動できる児童	
	○ すすんで体を動かし、心身共に健康で自分のめあての実現を目指して努力できる児童	
○教師像	○ 全ての児童の実態を的確に把握し、個に応じた適切な指導ができる教師	
	○ 児童に求めることは自ら率先垂範し、自ら学び続ける教師	
	○ 学校に求められる課題を真摯に受け止め、経営参画意識をもって取り組む教師	

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

- ・ 明るく素直で、自分の思いをすすんで表現できる児童が多い。誰もが学び、生活しやすい環境づくりに努めてきたことで、学校全体として規範意識が向上し、感情を自己調整できる児童が増えている。学びに向かう力の高まりが、基礎的・基本的な学習内容の定着につながることを目指してきた。
- ・ コロナ禍の経験を生かし、「アフターコロナ」においても教育活動の充実に努め、多くの成果を上げることができた。引き続き、学校、学年単位での共通行動を徹底しながら教育活動の充実に努めていく。
- ・ 学校に求められる課題を理解して指導の工夫に努めるなど、教職員一人一人の経営参画意識は高い。GIGAスクール構想に基づくICTの活用も進んでいる。子供の学びを支援する「伴走者」としての能力を教職員一人一人が身に付けられるように努めていく。
- ・ 保護者や地域住民が学校に対して協力的であり、教育活動に対する理解・協力を得られていることに感謝している。社会の変化に対応した、PTAや開かれた学校づくり協議会との連携を在り方も含め、保護者・地域の信頼を維持・向上できるように努めていく。

【前年度の成果と課題 ～自己評価・学校関係者評価の概要と改善方策～】

- ・ 授業力の向上や学習規律の確立により、基礎的・基本的な学習内容の定着が進んでいると評価を受けている。今後、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業づくりを推進し、児童一人一人の「学びに向かう力」を育てることを重視しながら、その結果としての「資質・能力の向上」を目指していく。
- ・ 学校ホームページによる情報発信や日々の活動により、地域と連携した学校のイメージが定着してきていると評価を受けている。引き続き、教育活動等の積極的な情報発信を継続していく。
- ・ 年間を通じて児童が運動に親しみ体力向上につながる活動の実施が評価を受けている。前年の研究発表した成果を生かし、体力向上に努めていく。
- ・ 組織的な生活指導や個別支援の体制を確立し、問題の早期発見・解決に努めていくとともに、児童の「危険を予測し回避する能力」を高めていく。
- ・ スローガンである「期待の登校・満足の下校」は、一定の評価を受けている。引き続き、家庭と地域と様々な教育活動を通じて継続していく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン（学力向上／研究・研修）	○	○	○	○	○
2	安全・安心な学校づくりの推進（健康・安全／個別支援）	○	○	○	○	○
3	保護者や地域と共に子供を育てる活動の充実（教育課程／特別活動）	○	○	○	○	○

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン								
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題			達成度 ◎○△●	
基礎的・基本的な学習内容の確かな定着		・区調査目標通過率 85% ・到達度確認テスト 80%		・区調査目標通過率 80.3% ・到達度確認テスト 76.9%		・区調査目標通過率は昨年度比▲3.7ポイント、「書くこと」「読むこと」の領域に全学年課題有り			△	
B 目標実現に向けた取組み										
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●	
1 継続	【授業改善】 ○楽しく挑戦したくなる授業の創造	○全学年 ○全教科	常時	○ICT機器を活用した個別最適な学習の推進 【指導】全教員 【内容】足立スタンダードを基盤とした授業の定着とICT機器の活用 ○教科指導専門員を活用した授業研修の実施	○主体的・対話的で深い学びの実現 「めあて&振り返り100%」 「ICT活用90%」	○学校評価アンケート 「すすんで学習」 肯定率90%以上 ○児童自己評価 80%以上	○学校評価アンケート 肯定率90%	○足立スタンダードは、定着しつつあるもののICT機器の活用は、より効果的な活用が必要。 ○若手教員を中心に教科指導専門員を活用し、授業力向上を図った。	○	
2 継続	【パワーアップタイム】 ○現学年の基礎的・基本的な学習内容の確実な習得	○全児童 ○国語・算数	【昼10分間】 ○月・木曜 漢字 ○火・金曜 計算	【指導】担任 【内容】区調査や単元末テストで定着率の低い漢字や計算の習熟 【教材】漢字・計算等のプリント「次へのステップ」 AIドリル「Qubena」	○パワーアップテスト 漢字・算数 年3回実施	○国語【8・11・2月】 目標値:全国平均以上 通過率:80%以上 ○算数 【9・12・3月】 目標値:全国平均以上 通過率:80%以上	○国語【8月】62% 【11月】73% 【2月】76% ○算数【9月】75% 【12月】80% 【3月】72%	○国語、算数共に、通過率80%以上を達成することができなかった。AIドリルについては、2月のMAU率が92%と全学年で活用が定着しており、今後も活用を図る。	△	

3 継続	<p>【補習教室】 ○現学年及び前学年までの学習内容の確実な定着</p>	<p>○区調査目標値未達成児童 ○単元テスト正答率70%未満の児童 ○国語・算数</p>	<p>【朝15分間】 読書・補習タイム (週1回)</p>	<p>【指導】全教員 【内容】つまづきをさかのぼり、個別もしくは少人数で指導 【教材】区学力調査問題、漢字・計算プリントやAIドリル、単元テスト、TBD 「次へのステップ」</p>	<p>○区調査活用 【7月】現学年 【1月】次学年</p>	<p>○到達度確認テスト 【2月】 2教科通過率75%以上</p>	<p>○到達度確認テスト (国語)77.1% (算数)76.7% 2教科の通過率76.9%</p>	<p>学校全体では、2教科合計の通過率は、目標の75%を上回ったものの、2年生と5年生では、2教科共に75%を下回っており、課題がある。</p>	○
4 新規	<p>【夏休み特別学習教室】 ○サマースクール ○AIドリル活用型サマースクール ○夏そだち教室</p>	<p>○基礎的・基本的な学習内容の定着・習熟が十分でない児童 ○国語・算数</p>	<p>夏季休業中前半 (10日間) 一日60分</p>	<p>【指導】全教員 【内容】区調査で目標達成度の低かった単元 【教材】区学力調査問題、漢字・計算プリントやAIドリル、単元テスト、TBD 「次へのステップ」</p>	<p>○区調査活用 【7月】現学年 【1月】次学年</p>	<p>○到達度確認テスト 【2月】 2教科通過率75%以上</p>	<p>○到達度確認テスト (国語)77.1% (算数)76.7% 2教科の通過率76.9%</p>	<p>学校全体では、2教科合計の通過率は、目標の75%を上回った。特に3・4年生はそだち指導等の活用により、成果が表れている。</p>	○
5 継続	<p>【家庭学習ぐんぐん週間】 ○家庭学習習慣の定着 ○学びに向かう力の向上</p>	<p>○全学年 ○主として国語・算数</p>	<p>【4・6・9・10・1月】 各月1週間</p>	<p>【指導】担任・保護者 【内容】「家庭学習の手引き」により保護者との共通理解を図り、家庭学習習慣を定着</p>	<p>○宿題提出状況調査</p>	<p>【4・6・9・10・1月】 宿題提出率90%以上</p>	<p>【4月】73% 【6月】82% 【9月】84% 【10月】96% 【1月】92%</p>	<p>宿題への取組の定着等を目的として全校共通で取り組み、学習に対する自主性を育んだ。10月以降の提出率は、90%以上となった。</p>	○

重点的な取組事項－２		安全・安心な学校づくりの推進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
子供がより安全に、安心して学ぶことができる環境の確立		学校評価アンケート：以下の3項目肯定率90%以上が2項目以上	3項目の肯定率が90%以上であった。	引き続き充実に努める	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
(1)安全な生活環境の確立	学校評価アンケート「安全な生活環境」肯定率90%以上	①社会の状況に応じた生活安全・交通安全・災害安全の取組の創造 ②家庭・地域との連携による登下校時の安全確保 ③安全指導資料等を効果的に活用した安全指導の充実	○学校評価アンケート肯定率96% ①交通安全教室や、セーフティ教室等、発達段階を踏まえ実施 ②年3回の集団登校期間の実施、PTAや地域による見守りの実施 ③文部科学省作成の生命(いのち)の安全教育資料等を活用し、実施	・教職員及び児童が、危険を予測し、回避する能力の更なる向上に努めていく。次年度は、防災教育プロジェクト校として、児童・教職員の意識を高め、地域にも発信する。	○
(2)健やかな心と体の育成	学校評価アンケート「健やかな心と体」肯定率90%以上	①児童の実態を踏まえた体力向上の取組の充実 ②定期健康診断結果に基づく、家庭と連携した健康教育の推進 ③保護者や関係企業等と連携した「食に関する指導」の充実	○学校評価アンケート肯定率93% ①元気アップタイム(体育的活動)により、運動遊びの日常化と運動習慣を定着 ②未治療者への治療勧告の実施 ③外部講師を依頼するなど、「食に関する指導」を各学年で実施。	・運動遊びの時間を確保し、楽しく体を動かすことで運動習慣が定着するよう努めた。現在の取組を継続し、体力向上を実現する。 ・保護者への声掛けも継続して行っていく。	○
(3)誰もが学び、生活しやすい環境の構築	学校評価アンケート「学び、生活しやすい環境」肯定率90%以上	①「ユニバーサルデザイン」を踏まえた校内環境の改善 ②「WEBQU」を効果的に活用した個別支援の充実 ③コミュニケーションの教室「ACR」における個別指導・小集団指導の充実	○学校評価アンケート肯定率92% ①配布文章の書式をUDデジタル教科書体に引き続き統一 ②調査結果を学級経営、個別支援への活用、要支援群に属する児童の把握と支援を実施 ③個別支援・小集団指導の充実	・多様なニーズのある児童が在籍していることから、心理的安全性の観点から、教育環境の改善・見直しが課題 ・個別最適の実現と規範意識の醸成とをバランスよく目指していく。	○

重点的な取組事項－3		保護者や地域と共に子供を育む活動の充実			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者・地域と連携した教育活動の充実		学校評価アンケート：以下の3項目肯定率90%以上が2項目以上	3項目の肯定率が90%以上であった。	引き続き充実に努める	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
(1)学校と保護者、地域との連携	学校評価アンケート「保護者や地域との連携」肯定率90%以上	①教育活動ボランティア（安全、図書、学習等）の再活性化 ②PTA・協議会と連携した安全確保や学力向上の取組の充実 ③地域の人材・学習材を効果的に活用した取組の創造	●学校評価アンケート肯定率94% ①図書ボランティアによる「お話の森」や、学習ボランティアの実施 ②漢字検定や、季節毎の校内掲示の児童と協働による校内環境の向上 ③1・2年の町探検や、地域清掃活動	・保護者・地域と連携した取組を実施し、児童の活躍の場を多く設けた。 ・地域の人材・学習材を効果的に活用した活動を今後も実施していく。	○
(2)情報発信の充実	学校評価アンケート「参加や報告の機会」肯定率90%以上	①教育活動やPTA・協議会活動の積極的かつ定期的な配信 ②社会情勢に応じた授業公開や保護者会等の実施 ③学校評価の実施方法や報告の場の工夫	●学校評価アンケート肯定率96% ①学校ホームページの定期的な更新 ②学校公開、土曜授業公開時の「校長による学校案内」の新規実施。 ③C4+H&S活用によるアンケート実施	・学校ホームページの毎日更新により、日々の教育活動の周知できた。 ・アンケートの回収率の低さが課題	○
(3)望ましい人間関係の構築	学校評価アンケート「楽しく充実した学校生活」肯定率90%以上	①「希望や目標をもって生きる態度の形成」を核としたキャリア教育の充実 ②児童の実態に応じた異学年交流活動の創造・実施 ③自発的・自治的な活動を高める児童会・クラブ活動の工夫	●学校評価アンケート肯定率97% ①全学年で夢デザインシートを活用、6年・租税教室によるキャリア教育 ②年間を通じた縦割り班活動の実施 ③ユニセフ活動、服プロジェクト等の児童会活動の実施	・異学年交流により、高学年がリーダーとなって自発的に活動する機会を増やすことができた。 ・年間を見通した行事計画の整理が課題	○

6 まとめ

(1)今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点目標である「学力向上アクションプラン」については、足立スタンダードが定着してきたが、ICT機器の活用は、より効果的な活用が必要である。若手教員を中心に教科指導専門員等を活用し、授業力向上を図ることができた。次年度は、一部教科担任制の導入、校内研究の実施等により、学力向上を目指す。「安全・安心な学校づくりの推進」や「保護者や地域と共に子供を育む活動の充実」については、一定の評価を受けているが、一層の充実を図っていく。

(2)保護者や地域へのメッセージ

今年度も保護者の皆様、開かれた学校づくり協議会、地域の皆様をはじめ、足立小に関わっていただいた多くの皆様のご支援、ご協力のおかげで、充実した教育活動を展開することができました。心より感謝申し上げます。今後も教育活動の更なる充実に努めてまいりますので、引き続き教育活動へのご理解とご協力をお願いいたします。